

公開シンポジウム

「拒否します」—1980年9月、この一言とともに、ある在日朝鮮人が指紋押捺を拒否した。自らの考えに基づくこの単独の不服従行為は、それに共鳴した無数の外国人に伝播し増殖し、同調者を巻き込んでいくなかで、やがて外国人管理体制を根底から揺るがす「ひとさし指の反乱」へと転化していく。1985年、拒否者は全国各地で1万人を超え、のちに制度を変えさせる大きな力を生み出していった。

大量拒否から約40年が経過した現在、抵抗の記憶は忘却の一途をたどっている。はたしてかれらの闘いは、指紋制度の撤廃とともに「終わった」のだろうか？外登法がなくなり入管法に一元化されたからといって、戦後日本国家が「外国人」に対して向けてきたまなざしは本質的には変わっていない。だとすれば、当時、社会を変えたいと本気で考えたかれらが何を目指し、どのように闘ったのか、その軌跡を振り返ることは、豊かな運動史を再構築し、今を生きるわたしたちがその遺産を継承し発展していくための重要な機会となるだろう。

本企画では、長きにわたり運動を牽引した朴容福さん、ロバート・リケットさん、徐翠珍さんを招き、それぞれの視点と経験に沿って当時の運動を振り返っていただく。さらには、自治体労働者の立場から運動に取り組んだ水野精之さん、そして運動にとって「敵手」であった法務省入国管理局に当時務めていた水上洋一郎さんからコメントをいただくことで、複数の観点から運動を捉えなおす場としたい。



■趣旨説明

■運動の概況について／金由地(同志社大学社会学研究科博士後期課程)

■講演／朴容福(朝鮮人拒否者)、ロバート・リケット(アメリカ人拒否者)、徐翠珍(中国人拒否者)

■関係者からのコメント／水野精之(元板橋区職員)、水上洋一郎(元法務省入国管理局登録課職員)

■パネルディスカッション

■質疑応答

■司会／板垣竜太(同志社大学教員)、鄭雅英(立命館大学教員)



会場／同志社大学今出川キャンパス
良心館 RY地1教室

2024.11.30 [土] 13:30～

13:00開場／17:30終了予定

(無料、申込不要、対面のみ※当日のネット配信はありません)

主催／同志社大学・都市共生研究センター(MICCS)
グローバル地中海地域研究プロジェクト
同志社コリア研究センター

MICCS

グローバル地中海地域研究
Global Mediterranean

DOCKS



※本事業は、科研費(特別研究員奨励費)「在日外国人の指紋押捺拒否運動に関する歴史社会学的研究」(課題番号24KJ2141)の成果の一部です。

サイト／<https://do-cks.net/fingerprinting/>

連絡先／antifingerprinting2024@gmail.com

アクセス／地下鉄烏丸線「今出川」駅(2番出口)徒歩3分



指紋押捺拒否・反外登法の闘いとは
なんだつたのか—四〇年後のいま、運動を振り返る